



度暮らし支えるボランティアの集い「ボランティア活動交流集会」
11月30日、ふれあいランド岩手で、平成29年度暮らし支えるボランティアの集い「ボランティア活動交流集会」（主催岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター）を開催しました。交流集会には、県内各地で活動するボランティア団体の会員など61名が参加しました。

オリンピックに続き、県内で活動する2団体がそれぞれ活動を発表。参加者が各グループに分かれての情報交換後には、「ボランティア活動は、仲良く楽しく無理をしないことが大事」「活動を通して、やりがいや生きがいを得られる」「ボランティア活動はたくさんの笑顔をもたらす。家族にもやさしくなる」といった発表がありました。

△活動発表団体
まちなかドッグCAN（盛岡市）CANができる・をコンセプトに、ワンちゃん繋がりで、赤ちゃんから子供、若者、高齢者、車椅子の方などが一緒に活動できる、居心地のいい場所作り活動を行っている。
コーディネーターの岩手県ボランティア団体連絡協議会の加藤隆男会長は、「ボランティア活動の魅力は『人と人との出会い』であり、

活動を長く続けるには、自分が活動を始めようと思った時の『熱い想い』を誰かに伝えること。活動をする中で困難な状況に陥った時も『熱い想い』を持続ければ、人やモノ、金銭的な状況は好転していく」と県内から参加したボランティア活動者にエールを送りました。

ボランティアから「芽」を出した活動が、暮らしを支える活動になつていった例は多数あります。様々なボランティア活動が、住民の暮らしどと支援へと繋がっていくことが期待される交流集会でした。

平成29年度暮らし支えるボランティアの集い「ボランティア活動交流集会」



利用者にケーキを手渡す白石雄一代表取締役社長（右）

白石食品工業株式会社（白石雄一代表取締役社長）恒例のクリスマスケーキ贈呈式は、12月25日にふれあいランド岩手で行われ、福祉施設利用者や同施設職員らが出席しました。このクリスマスケーキ贈呈式は「さまざまな事情で施設を利用し、家族とともにクリスマスを過ごせない人たちに、ケーキを添えて季節の夢を手渡したい」という思いから、同社が社会貢献活動の一環として昭和43年から行っている事業で、今回で50回目となります。

白石社長は「今年もクリスマスケーキを贈呈できますうれしいです。ケーキを囲んで皆さんも楽しく過ごしてください」とあいさつ。施設を代表してケーキを受け取った社会福祉法人盛岡市民福祉バンク（盛岡市）利用者の小糸米崇弘さんは「心のこもったケーキをありがとうございます。みんなでおいしくいただきます」と謝辞を述べました。

ケーキは、盛岡市周辺の児童養護施設、特別養護老人ホーム、障害福祉サービス事業所など92施設（利用者4,008人分）に贈られました。

ノーマリゼーションセミナー！シンポジウムin岩手

ノーマリゼーションセミナー・シンポジウムin岩手（主催：社会福祉法人経営者協議会、岩手県社会福祉協議会）は、10月24日、ホテルメトロボリタニユーウィングで開催され、社会事業経営者・従事者、行政関係者、福祉を学ぶ学生ら約200人が参加しました。

シンポジウムは、社会福祉国家デンマークから、豊富な知識と経験を有する専門家チーム5人を招き、「掲げかごから墓場までの障がい者支援」をテーマに、共生社会実現に向けたヒントを探りました。

シンポジストの一人チーナ・スケール氏（児童特別支援教育専門官）は、デンマークの福祉制度や、障がいを持つ子どもがいる家庭への支援について説明。「障がいをもつ子どもも、他の子どもと同じ生活ができるような支援が行われなければならない。障がいによって成長過程や度合いは異なるが、最大限彼らの能力を伸ばす支援を行っている」とし、「障がいのある子どもが生まれた場合、なるべく早い時期に専門家が支援に訪れることが、子どもにとつても大変だ」と提言しました。

シンポジスト5人による、望ましい福祉社会の実現を見出すための意見交換に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

○ノーマリゼーション
差別のない共生社会の実現を目指し社会福祉を進めること。デンマークの取組から生まれた理念。同国の社会運動家バンク・ミケルセン氏が提唱。1981年の国際障害者年をきっかけに日本でも認知され、やがて国際社会における福祉の基本理念として定着しました。



地域福祉活動コーディネーター養成研修会は、平成21年度の開始から平成28年度まで合計288人が修了しています。

11月6～7日、ふれあいランド岩手で、平成29年度地域福祉活動コーディネーター養成研修会「後期課程」（主催：岩手県社会福祉協議会コミニティ・サポートセンター）を開催しました。研修会には、市町村社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、障がい者相談支援事業所職員など31名が参加しました。

講義で、コミニティ・ソーシャルワーカーの留意点などを振り返った後、演習では、グループに分かれ、事前提出した課題を発表・評価し、講師の助言を受けました。

地域福祉活動コーディネーター養成研修会は、平成30年度も開催される予定です。

○地域福祉活動コーディネーター（CSW）
住民と協働で「制度のはざま」にある人たちを発見し、その解決を目指す。行政と住民をつなぐ役割も担う。生活が困難な家庭や家族など、支援を必要としている人や、地域に対しての援助を通じて、地域と人を結びつけたり、生活支援や公的支援制度の活用を調整するための「コミニティ・ソーシャルワーク」を実践することが期待されています。

